

正解率は、全て 50%以上なので、リクエストの多かった問 8 と問 5 について、テキスト解説を補足する。

【問 8】 5\_64%

- あり得る組合せは、7人で各色が3以下であるから、次の2とおりでである。  
「3 : 3 : 1」と「3 : 2 : 2」
- 「3 : 3 : 1」の場合、1の人は残りの色であることがすぐに分かる。  
始めだれも分からなかったから、この組合せではない。
- 「3 : 2 : 2」の組合せであるから、自分が3の場合と2の場合に分けて考える。
- 自分が3の場合、見える帽子は2 : 2 : 2であるから、どの色もあり得る。  
自分が2の場合、見えるのは3 : 2 : 1である。  
帽子は「3 : 3 : 1」でなく、「3 : 2 : 2」であることを考える。  
すると、自分の色は1人だけ見える色と同じである。
- この状態は、3以外の人と同じ条件だから4人が同時に分かることとなる。
- すると、分からなかった人は、「分かった」と言った4人以外の色となる。

【問 5】 3\_67%

- 表にする。『重要なヒントは、最後に来ることが多い』
- エ、オ、カについて表に書き込むが、ABCが主語になるように書き換える。  
すなわち、「Dは、Bに勝った」は、Bを主語にすると「Bは、Dに負けた」  
表の左を主語として、負けは×を入れる。
- アイウの条件を読むと、「全てに勝った」とあり、1人だけに勝ったのであれば全てという用語は使用しないから、ABCは、2勝又は3勝である。
- キの条件がなくても、図の空欄はABCの勝と判断できる。

以上

	D	E	F
A			×
B	×		
C		×	

※ 問題の文章が日本語として違和感が生じないようにするため、出題者は苦心するもの

「ア. Aは、Cに勝ったY校の選手全てに勝った。」の条件を考える。

「Aは、全てに勝った」の「全て」はだれかが問題となる。

素直に読むと、「Cに勝ったY校の選手が複数人いて、その全ての選手にAが勝った」となり、Cは少なくとも2敗し、Aは2勝していることとなる。

同様に、イ、ウの条件から、ABCの3人全員2勝2敗となり試合数と矛盾する。

したがって条件は「ア. Aは、Cに勝ったY校の選手に勝った。」であれば、勝った相手を1人とも2人とも規定していないので矛盾は生じない。